

| 会 議 録  |                |  |        |                      |
|--|----------------|--|--------|----------------------|
| 平成 19 年度第10回<br>社会教育委員の会議  | 日<br>時         | 平成 20 年3月24日(月)<br>午後2時 00 分～4 時 00 分          | 場<br>所 | 小金井市役所第二庁舎<br>801会議室 |
| 事務局  | 小金井市教育委員会生涯学習課 |  |        |                      |
| 出<br>席   | 委 員            | 井土、伊藤、浦野、倉持、小林、武田、田中、本川各委員<br>(欠席) 田尻、彦坂各委員    |        |                      |
|  | その他<br>事務局     | 伊藤生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長<br>木村生涯学習係主事、 |        |                      |
| 傍聴の可否  | ◎可・一部不可・不可     | 傍聴者数   | 0人     |                      |
| 傍聴不可・一部不可の場合の理由  |                |  |        |                      |
| 次 第  |                |  |        |                      |
| 1. 報告事項  |                |  |        |                      |
| (1) 平成19年度都市社連協第2回理事会について  |                |  |        |                      |
| (2) 平成19年度社会教育指導者研修について  |                |  |        |                      |
| (3) 三者懇談会について  |                |  |        |                      |
| (4) 平成20年度第1回定例会報告   |                |  |        |                      |
| (5) 平成20年度事業について   |                |  |        |                      |
| (6) その他  |                |  |        |                      |
| 2. 協議事項  |                |  |        |                      |
| (1) 平成20年度第5ブロック研修会について<br>平成20年度都市社連協統一テーマ:「いきいきと学び、地域に貢献する社会教育」～世代を超えて文化・情操を高めあうまちづくり～   |                |  |        |                      |
| (2) その他  |                |  |        |                      |
| 1. 報告事項  |                |  |        |                      |
| (1) 平成19年度都市社連協第2回理事会について<br>(木村生涯学習係主事)   |                |  |        |                      |
| 平成19年度都市社連協第2回理事会が、3月7日金曜日午後2時30分から東大和市役所の第六会議室にて開催された。会長市の東大和市の木崎委員、全国社連協事務局長の林氏、都社会教育課の小池氏からの挨拶の後、別紙「平成19年度東京都市町村社会教育連絡協議会 第2回理事会 次第」のとおり、報告・協議がされた。 |                |  |        |                      |
| 協議事項では、平成20年度の都市社連協統一テーマ:「いきいきと学び、地域に貢献する社会教育」～世代を超えて文化・情操を高めあうまちづくり～ が提案され、賛成多数で了承された。従って、来年度のブロック研修会では、各ブロック幹事市が統一テーマの下にブロックテーマを掲げ、実施する。             |                |  |        |                      |

また、平成20年度都市社連協定期総会について東大和市より通知があった。4月19日（土）午後1時から、場所は東大和市民会館ハミングホールで開催予定となっている。

## （2）平成19年度社会教育指導者研修について

（小林委員）

「地域の力で学校支える」というテーマで、約2時間20分の中で講演と事例発表が行われた。御厩祐司さんの講演の詳細については別紙のレジュメを参照。レジュメ8ページの「地域による学校支援の事例」の最後に「都市鉱山」と書かれているが、これは都市の中に鉱山があるとすれば、都市の中に埋もれている人的資源を発掘していくことができるのではないかとこの発表だった。これを受けての小平市の事例発表になっていた。小平市立第二中学校の学校支援の取り組みということで、発表者がコーディネーターとして実際に関わってきた内容について報告された。質疑応答では、このような取り組みはどのように行っていけばよいのか、予算はどうなっているのか等の質問が出た。学校支援ボランティア・ボランティア体制については、小平第二中学校ではコーディネーター部会がある。当初はコーディネーター2人から始まったが、その後7人になり、現在では11人になっている。当初は都のモデル校として都から補助金が出ていたが、現在は市の予算で実施しており、コーディネーター1人あたり月額3千円で、何人が活動していても1校あたり2人分までしか予算が出ず、1校あたり最大で月6千円の予算措置となっている。学習支援には70～100人前後の保護者が、生活安全支援では元PTAの方々が、部活動支援では専門家が支援をしている。これらの事業の取り組みに、様々な形で学校支援に携わっている。学校支援に当たって必要性を感じていることとして「支援はお手伝いではなく、パートナーであり、共同作業なのだ」ということを第一に掲げていた。また、何のために取り組むのか、ということが大事だとの話だった。できることとできないことがあるので、地域の総合力でどのように役に立っていくかという話だった。質疑も活発に交わされた。

（田中議長）

小金井市もこういった取り組みをやろうと考えているところであるが、非常に大きな労力が必要とされるだろう。中途半端ではできない取り組みだ。

## （3）三者懇談会について

（田中議長）

3月21日（金）14時から公民館学習室で図書館協議会・公民館運営審議会・社会教育委員の会議の三者による懇談会が開催された。様々な意見が出る中で、いかに人材を発掘し、埋もれている人材・能力のある人たちを繋げてネットワークを構築していくかという話を中心となった。また、今後公民館・図書館等市内の施設の様子を

見るような館内研修を行うなど、互いに理解を深めていきたい。年に一度の懇談会であるが、今後はもう少し密に連絡を取り合って、協力していけるとよい。

#### (4) 平成20年度第1回定例会報告

(伊藤生涯学習課長)

本日が議会最終日のため、生涯学習部長は議会に出席している。第1回の定例会は当初予算についての話が中心となった。生涯学習関係については特別大きな議題となったものはない。

生涯学習課は放課後子ども教室への取り組み具合や問題点について質問があった。今年度、本町小学校での取り組みを開始したところであるが、近いうちに他の学校でも1校ないし2校ほど実施に移して行きたい。学校の施設を使用するため、学校教育との関係が課題となる。

(林スポーツ振興課長)

平成21年度から総合体育館及び栗山公園健康運動センターを指定管理者制度に移行する。指定管理者は、公募によるプロポーザル方式で選定する予定。

(田中図書館長)

図書館の高コスト化の改善をする、図書館協議会以外で図書館のあり方懇談会を設ける、価格の安い古書店等から図書を購入する、寄贈本を積極的に受け入れする等の提案があった。来年度は図書館協議会の回数を3回から5回に増やす。古書店は業者登録があり購入が可能であるようなら対象として検討していく。また、寄贈本の受け入れについては現在、増加している図書を整理している最中にあり、受け入れがたい状況にある。近隣図書館との相互利用についての提案もあったが、図書館長協議会や、小平市・国分寺市等に依頼をしたところ、職員の負担増もあり、館長レベルでは判断できないとの回答であった。引き続き、相互協力についてはお願いをしていく。

デージー図書を発達障害の方にも提供しないか、発達障害について図書館協議会で議論しないか、テープの提供を並行しないか、デージー機も必要ではないか、デージー図書の周知についてはどうなっているのかとの質問があった。デージー図書は視覚障害者用に提供を開始したもので、19年度に一定の機器を配備し初心者講座を開催し、20年度は初級講座を開催する。当面は視覚障害を対象とし、学習障害等への対応については、今後の定着状況をみて考えたい。今のところ図書館協議会での議論は考えていない。テープの提供については、今後とも並行して行う。周知については市報で広報しており、ポスターの掲示等もしているところである。

(中嶋公民館長)

貫井北町地域センター(仮称)の建設について、後期基本計画に、平成22年度基本設計となっているが、財政状況等もあり、第四次基本構想(平成23年度以降)に延伸することになった。20年度は貫井南センターの耐震補強工事を予定している。5月

29日から工事に入り、7月28日から9月15日まで一時閉館予定。4月15日号、4月の月刊こうみんかん、ホームページ等で周知徹底を図る。

(田中議長)

指定管理者制度を導入することでサービスの質の低下等も懸念されているが、どのように考えているか。

(林スポーツ振興課長)

指定管理者制度導入の基本的な目的は経費削減とサービスの向上であるので、今後の指定管理者制度への移行にあたっては、むしろ現状よりも良いサービスを提供してもらうことを前提として考え、指定管理者を選定したい。

(田中議長)

使用料等により、発生した利益はどのような取扱いになるのか。

(林スポーツ振興課長)

詳細については現在検討中であるが、利益が出た際には市と指定管理者とで分けるような形になるのではないかと考えている。

(伊藤生涯学習課長)

清里少年自然の家が平成18年から指定管理者になっている。サービスについては指定管理者になったことで、駅から清里山荘への送迎・山荘から近隣の目的地への送迎等が行われるようになった、ホームページを業者側で立ち上げることで、タイムリーな話題を提供し、申し込みもホームページから行えるようになった等のメリットがある。使用状況についても当初の見込みよりも一定の黒字が出ている。その部分については業者と協議のうえ、古くなった備え付けのテレビを一部買い換えた。基本的には黒字が出た場合の対応について、契約の段階で取り決めておく必要がある。

(田中図書館長)

行財政改革調査特別委員会で、図書館に指定管理者制度を導入するよう求める陳情があった。指定管理等も視野に入れつつ図書館協議会に諮っていきたい。現状としては、三多摩の図書館では指定管理者制度を導入している図書館はない。一部委託ということで、稲城市・府中市等が行っているが、そのあたりを見ながら検討していきたい。

(伊藤委員)

施設を指定管理者に移行した場合、重大な事故が発生した際の保障等はどうなるのか。

(伊藤生涯学習課長)

保険は指定管理料の算定の基礎になっている。施設賠償保険等、必要なものに指定管理者のほうで入る。

(本川委員)

放課後子どもプランの今後の予定校はどこか。また、その中身はどのようなものか。

(伊藤生涯学習課長)

南小学校と第四小学校を予定している。本町小学校では小学校の退職教員を中心に学習アドバイザーをしてもらっている。読み聞かせ、工作等をしている。時間は14時から。来年度は学習アドバイザー、コーディネーター等の人数を増やす必要がある。また、学習アドバイザーが主導ではなく、子どもたちが自分で自由に何かをする時間を作ることも必要。

(倉持委員)

学習アドバイザーはボランティアか。コーディネーターはどのような人がやっているのか。

(伊藤生涯学習課長)

学習アドバイザーは有償。また、PTAが安全管理員として係わっており、有償ボランティアになっている。コーディネーターは文科省の基準で5校に1名となっており、小金井市は9校あるので2名のコーディネーターがいる。地域子ども教室でボランティアをやっていた方2名にお願いしている。来年度はもう1名増やしたい。

(本川委員)

対象となる学年は。

(伊藤生涯学習課長)

文科省の基準では就学前から高校生までが対象という制度にはなっているが、実際には小学校の中で行っているので、本町小学校の場合には本町小の1年生から6年生。ただ、実質としては低学年が中心となっている。

(小林委員)

コーディネーター・学習アドバイザー・安全管理員等を選ぶ基準は。

(伊藤生涯学習課長)

コーディネーターは市から委嘱。市全体を見てもらえる人を選んでいる。学習アドバイザーについては事業を実施するために望ましい人であれば特に基準はない。安全管理員については校庭での見守りも行っており、南小と四小でも同様の取り組みができなにか検討中。

(浦野委員)

何人くらいの子どもが参加しているのか。

(伊藤生涯学習課長)

1回平均20人程度。

(5) 平成20年度事業について

(伊藤生涯学習課長)

第2次生涯学習計画策定、団塊の世代のための地域参加講座、市民カルチャースクール、成人の日記念行事、市史編さん資料調査研究、放課後子どもプラン事業、市政施行50周年関係事業の7点が20年度の主な事業となる。

(林スポーツ振興課長)

東京国際スリーデーマーチ、スポーツ・レクリエーション体験教室、市政施行50周年記念関係事業、上水公園運動施設の体育・音楽・保育機器類等の備品購入、総合体育館維持管理に係る修繕、栗山公園運動センター維持管理に係る修繕の6点が主な事業。

(田中図書館長)

市政施行50周年関係事業、デイジー編集初級者講習、図書館運営に要する一般機器類等備品購入の3点が主な事業。

(中嶋公民館長)

市政施行50周年記念関係事業、貫井南分館耐震補強他の工事、公民館維持管理に要する一般機器類等備品購入、その他公民館事業に要する備品購入、ITサポート事業4館目の開設の6点が主な事業。

(6) その他

・栗山公園健康運動センターのプールについて

(林スポーツ振興課長)

2月27日に多摩府中保健所が実施した水質検査の結果、レジオネラ菌が検出されたとの報告が3月6日にあった。保健所の見解としては、日常の水質管理等については特に問題はないとのことだった。原因としては、昨年12月から今年の1月にかけて行われた、プールの天井改修工事の期間中にプールを停止し、再開する際も清掃・消毒等を行っていたが、どこかに水が溜まっていてそこから発生した可能性が考えられる。保健所からは、人体に影響が出る数値ではなく、直ちに営業を停止する必要はないが適切な措置を講じるように、との指導であったが、念のため3月7日から営業を停止し、3月11日に消毒・洗浄を行った。翌12日に保健所の再検査を受け、検査の結果19日に「不検出」との報告があったため、20日から営業を再開した。今後は日常の水質管理を徹底すると共に、工事等で休業する際には洗浄を実施し、利用者に迷惑のかからないようにしていきたい。

(浦野委員)

栗山公園のプール管理の委託業者が変更になり、サービスが低下したのではないかと利用者の声があるがどうか。

(林スポーツ振興課長)

プールの運営管理は委託をして行っており、業務内容は受付業務・プール監視業務・衛生管理業務・水泳教室。業者は入札等を行って選定しており、業者が変わっても、仕様が変わるわけではないため、サービスの中身についてはこれまでと同様のレベルの維持を要求している。ただ、今回業者が新たに変わったため、不慣れな部分もあり、一部で前の業者のほうがよかったとの声が出ているのかもしれない。そのような声が続くようであれば指導をしていきたい。

・図書館エレベーターの改修工事について

(田中図書館長)

平成19年6月12日地下階でエレベーターを呼んだところ、停止位置に止まらず、床下部の緩衝機にぶつかって停止した。昭和50年の開館以来、32年を経過し、老朽化しており、これまで度々不具合が生じていたが、今回この事態を重く受け止め、翌13日からエレベーターの利用を書籍等の運搬のみに限定して使用してきた。平成19年9月の第3回市議会に補正を提出し、エレベーターリニューアル工事予算を確保し、平成20年3月3日から17日まで改修工事を行った。

・図書館講演会事業の報告について

(田中図書館長)

図書館では毎年1回、図書館を身近に感じていただくため、市民を対象に講演会事業を実施している。今年は3月15日(土)に東分館を会場として、「江戸と多摩地域の妖怪話」と題し、東雲騎人さんによる講演会を開催した。定員50人のところ80人を超える応募があり、東分室に隣接する笠森神社や二枚橋の伝説についてもお話いただき、盛況のうちに終了した。

(武田委員)

今後指定管理者制度等の導入が進んでいくと思うが、埼玉県ふじみの野市でのプール事故のようなことが起こらないように、委託しても保守・点検等をこれまでどおり行い、事故のないようにしてほしい。

## 2. 協議事項

### (1) 平成20年度第5ブロック研修会について

(田中議長)

今年度の社連協統一テーマが「いきいきと学び、地域に貢献する社会教育」～世代を超えて文化・情操を高めあうまちづくり～となっている。三者懇談会のようなシンポジウム形式で行う、コーディネーター等にも参加してもらい、地域教育会議の縮小版のような形式で行う、という形があるかと思うがどうか。「横のつながり」「ネットワーク」等がキーワードになってくるのではないか。その中でどのように縦糸と横糸をつむいで言ったらよいのか、どのように互いに情報を共有し合えばよいのか、といった点がテーマになってくるのではないか。「小金井らしさ」を出しながら、どのように個々の資質をつなぎ合わせて大きなパワーにしていけるか。

(伊藤委員)

それぞれの団体の持つ、エンジンのようなものが連動していけばもっと大きなタービンをまわしていけるのではないか。

(本川委員)

そのタービンになるもの・核となるものをいかに構築していくかという点が重要だ  
と思う。

(倉持委員)

あまり大きく手を広げるのではなく、1つの地区に限定して、その中で活動する団  
体を選び出すという形で、具体的に場を共有できる人たちの話に枠を小さくして絞り  
込んだほうが良いのではないか。その地域の特徴や、活動する人の顔の見える範囲の  
中で事例等を話してもらえるとよい。

(浦野委員)

場所を限定したほうが、具体的な話や一步先の話ができるのではないか。先導役が  
きちんといたほうがうまくまとまる。また、団体等を選び出す際には、「世代を超え  
て…」と統一テーマにあるように、子どもから大人までが繋がるようにしたい。

(本川委員)

このブロック会の件に集中した相談会を何度か設けるべきだろう。

(倉持委員)

発表者の方たちと、事前に話合いの場を持つておくことも必要だ。

(浦野委員)

地域で活動するにあたって、どんなことで問題意識をもっているのか。ある程度共  
通の意識を持っている団体でないと、話が様々な方向へ飛躍しすぎてしまうのではな  
いか。

[田中委員がブロック研修会のたたき台を作成し、次回はそのたたき台を元にして審議  
を進めることになった。]

(2) その他

- ・議事録の作成について

(伊藤生涯学習課長)

来年度から議事録の作成を外部に委託する。そのため、必ず名前を述べた上で発言  
をお願いしたい。

- ・4月からの会議日程について

平成20年4月以降の会議は各委員の都合を考慮し、第4金曜日の9時30分～に  
なった。この日程で7月まで会議を開催し、9月以降の日程についてはまた検討する。

(伊藤生涯学習課長)

6月の第二水曜日くらいから小委員会を開催したい。内容は「生涯学習推進計画に  
ついて」、時間は午前9時30分から11時30分くらいで考えている。

以 上